

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

7月の金融・マーケット動向

金利と株価

一般的に、債券（金利）と株価は逆に動く。単純化して言えば、企業業績回復 株価上昇 景気回復 資金需要活発化 金利上昇（＝債券下落）という図式が描けるからだ。5月からの株価上昇も、金利との関係でみると図式通り動いた。

	長期金利	日経平均
4月30日	0.605%	7,831円
5月30日	0.530%	8,424円
6月30日	0.820%	9,083円
7月31日	0.925%	9,563円

（長期金利は新発10年国債利回り）

そうした目で見れば、1990年迄は株式の時代だった。その後、株式暴落債券暴騰という債券の時代となった。債券の時代は、10年国債が0.5%と歴史を塗り替えるレベル迄低下する今年まで続いている。問題は、債券の時代が未だ続くかどうかと、時代環境・経済環境が激変する中で、従来の図式が果して通じるかどうかである。

これからの時代、景気が回復しても資金需要は高まらないのではないかと。全体の株価が上昇しても破綻する上場企業が増えるのではないかと。悪い金利上昇が景気回復に先行するのではないかと。

単純な図式は、多分通用しない。

手数料業務拡大

金融庁は、銀行が業務を行う上での手引きとなる事務指針を見直した。その結果、銀行は手数料を取って企業の経営指導やM&A支援が出来るようになった。これまで曖昧だった領域を正式に銀行付随業務に加えたのである。

これを受けて銀行はどう動くだろうか。いずれ融資を背景に押し売りが始まる可能性がある。注意が必要だ。

ローソンの貸金庫

コンビニ・ローソンが24時間いつでも店頭で現金を預かるサービスを開始した。銀行の夜間金庫より安い・便利が売り物で、小売店や飲食店の利用が見込めそうだ。

公共料金等各種料金払込みやATM設置で銀行が担ってきた決済インフラに切り込んできたコンビニは、銀行にとって手強く厭な相手となりつつある。

地銀の融資ホットライン

千葉銀行が「融資ホットライン」を設置した。融資に関する苦情や質問を受け付ける電話窓口で専担者2名が待機するという。営業店を経由せずに本部が直接顧客の声を吸い上げることが目的とのことだが、どんなものか試しに一度電話してみたらどうだろうか。

日米中小企業の資金調達構造

日本の銀行等金融機関が今後どのように動いて行くかを予測する一つに、日米中小企業の資金調達構造の違いがある。今月、日経新聞にデータが出たので下に転記してみる。

	日本A	日本B	米国
借入金	66.8	51.5	21.0
企業間信用	3.6	8.8	21.6
その他負債	17.4	20.4	13.4
自己資本	12.2	19.2	44.0

（A：社員～20人、B：21～100人、単位：%）

日本の中小企業は資金調達の50%以上を借入金で賄っているが、このことは日本の金融機関が中小企業（の支払う金利や手数料）に支えられていることを意味する。過剰債務や借入返済に苦しんだ中小企業が今後借入を増やすとも思えないので、融資市場は徐々に小さくなる。その結果、中小企業の資金調達構造も緩やか乍ら米国型に近づいて行く。こうして縮小する貸出マーケットを巡って金融機関相互の競争が一層激化する。

既にその動きは始まっている。

RCCの指針は10年

RCC（整理回収機構）は、企業再生計画を策定する際クリアすべき最低条件として、10年以内に債務超過を解消する、15年前後で借入金を完済する、という2点を明示した。

これは従前の各種指針より条件がかなり緩和されており、地域金融機関が取扱う企業再生の指針となる可能性がある。

デフォルト6%

中小企業資金繰り支援策として鳴り物入りで実行された東京都のローン担保証券。第1回発行分688億円で、裏付けとなった中小向け融資のうち6.3%が債務不履行となった。

ローン担保証券は保証協会が保証しているため投資家に損失は発生しなかったが、都側が9億円穴埋めする模様。とすれば、ローン担保証券の今後は暗そうだ。

Weekly Fax Report

《転載・複製等はこちらまでご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2003.8.2(第371号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp